

避難者の健康管理 ⇒石川県金沢市

【岐阜県から派遣依頼】 1/18～1/23 市保健師 1人

活動内容

- ・石川県産業展示館（1.5避難所）で避難者の健康管理を担当
- ・運営担当や看護師、介護担当者と避難者に合わせた環境改善を検討

課題

- ・感染症発生時のルールの共有など、感染対策
- ・避難者の栄養改善や長期滞在による筋力低下の予防



応急給水業務 ⇒石川県七尾市

【日本水道協会から派遣依頼】

1/23～1/26 第1班 水道課など職員3人 給水車1台

1/26～1/29 第2班 水道課など職員3人 給水車1台

2/22～2/25 第3班 水道課など職員3人 給水車1台

2/25～2/28 第4班 水道課など職員3人 給水車1台

活動内容

- ・給水車1台および職員を派遣し、病院2カ所のほか、こども園、介護施設、避難所などへ応急給水作業を実施。

課題

- ・活動場所でのトイレ不足
- ・被災地周辺での宿泊施設の確保や食料・燃料が入手困難



住家被害調査 ⇒石川県中能登町

【岐阜県からの派遣依頼】

1/25～1/28 事務職員 2人

2/15～2/18 事務職員 2人

活動内容

- ・住家被害調査（第1次調査）

課題

- ・現地職員は休暇もほとんど取れておらず、疲労も色濃いように感じた。今後の第2次調査、非住家の被害調査および固定資産税の減免措置なども同時に進めていく必要があり、短期間の調査支援のみでは現地職員に対するバックアップにも限界があると感じた。

※住家被害調査（第1次調査）

外観の損傷状況の目視による把握、住家の傾斜の計測および住家の主要な構成要素ごとの損傷程度などにより損害割合を算定し、被害認定基準などに照らして、被害の程度を判定する。



避難所運営支援 ⇒石川県輪島市

【岐阜県から派遣依頼】 1/27～2/3 事務職員 1人

2/8～2/15 事務職員 4人

活動内容

- ・トイレ掃除、炊き出し補助、避難所内の区画整理、避難所の環境改善、津波避難経路の確認

課題

- ・避難者に高齢者が多く、自主運営が困難
- ・看護師、県派遣職員、DMAT、警察など外部からの派遣が多く、派遣期間が異なるため情報共有が難しい。
- ・避難者の出入りが激しく、避難者名簿の照合事務が煩雑



派遣状況は2月14日現在のものです。
最新の情報についてはこちらをご覧ください。



特集 令和6年能登半島地震における災害派遣活動報告

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」におけるこれまでの災害派遣活動を報告します。
この経験を基に、課題を検証し、今後の備えに反映します。

防災安全課（☎内線160）

緊急消防援助隊 ⇒石川県能登町周辺

【緊急消防援助隊岐阜県大隊】

1/1～1/4 第1次隊8人（救助隊5人、救急隊3人）

1/4～1/7 第2次隊8人（救助隊5人、救急隊3人）

1/7～1/10 第3次隊6人（重機隊3人、救急隊3人）

活動内容

- ・救助隊 倒壊家屋から1人発見
- ・救急隊 被災地の病院から金沢市方面へ計3人搬送
- ・特殊装備小隊 捜索を実施

課題

- ・活動場所や宿営地での大雪、防寒対策
- ・宿営地でのトイレ対策
- ・個人装備品の充実



DMAT（災害派遣医療チーム） ⇒公立能登総合病院、市立輪島病院、いしかわ総合スポーツセンター

【中津川市民病院 DMAT】

1/2～1/4 第1次隊5人（医師1人、看護師2人、作業療法士1人、事務職員1人）

1/5～1/7 第2次隊5人（医師1人、看護師2人、薬剤師1人、事務職員1人）

1/25～1/28 第3次隊6人（医師2人、看護師2人、薬剤師1人、作業療法士1人）

2/9～2/12 第4次隊4人（医師1人、看護師2人、作業療法士1人）

活動内容

- ・第1次隊 病院支援指揮所運営（資器材、情報収集）
転院搬送3人、避難所評価
- ・第2次隊 病院支援指揮所運営（資器材、活動記録）
転院搬送2人、診療支援（救急外来）
- ・第3次隊 病院支援指揮所運営（各隊の配置および業務指示、人員調整）
資器材の整備、夜間救急業務支援、発熱者外来支援、看護業務支援

課題

- ・緊急走行時のさらなる安全確保（回転警告灯など）
- ・トイレ対策、水対策

※DMATとは

医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職および事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場で、災害急性期に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームのこと。



下水道被害調査 ⇒石川県中能登町

【中部8県、政令市3市で35班編成】

1/8～1/12 下水道課技術職員 1人

活動内容

- ・人孔（マンホール）開閉による被災状況目視確認（約4km/日）と人孔目視調査記録表の作成

課題

- ・拠点となる金沢市から被災地（調査地）への支援車両などが集中し、移動に時間を要したため、作業の効率が上がらなかった。
- ・USBメモリが使用できない、メールが送れないなどパソコンのセキュリティー問題などのため、デジタルデータのやり取りに時間と手間がかかった。

